



IMO 最低出力ガイドラインについて

国際海事機関（IMO）では、エネルギー効率設計指標（EEDI）規制を開始しましたが、その結果として主機関出力が小さくなる傾向にあり、荒天航行時の操縦性・安全性に影響を及ぼす懸念があります。そのため、下限の主機出力を規制する暫定ガイドラインが採択され、その最終化に向けて活発な議論がなされています。第 331 回 KFR 例会として、IMO 最低出力ガイドラインの最新の動向とその技術的な背景についての理解を深めるべく本セミナーを企画いたしました。荒天航行時の操縦性・安全性に馴染みの深い方々に加えて、主機設計に携わっておられる技術者の皆様やこうした分野に馴染みの薄い学生／技術者の皆様にも積極的にご参加いただき、自由活発に意見交換が出来る場になりたいと考えております。多数のご参加をお待ちしております。

KFR 会長 松本 光一郎

— 記 —

第 331 回 KFR セミナー

- 日時：2015年12月4日（金） 13:30～17:30
- 会場：大阪府立大学 I-siteなんば カンファレンスルーム
大阪市浪速区敷津東2丁目1番41号 南海なんば第1ビル 2階
<http://www.osakafu-u.ac.jp/isitenanba/map/index.html>
- 参加費：無料，要事前登録

・ 最低出力ガイドラインに関する国際動向について

貴島 高啓（国土交通省海事局）

2013年5月に「暫定最低出力ガイドライン(暫定ガイドライン)」が策定されましたが、この暫定ガイドラインの最終化に向けて、各国・関係機関では、詳細な技術的検討が開始されているところです。特に欧州では、SHOPERAプロジェクトを立ち上げ、日本においても学会を中心とした「最低出力検討委員会（座長：安川広島大学教授）」を発足させ、検討しています。本講演では、上記の動向について、IMOやSHOPERAでの交渉の現場の状況も踏まえた説明を行います。

・ 風波中での船の操縦性能

安川 宏紀（広島大学工学研究科）

IMO最低出力ガイドラインの議論においては、主に風波下における船の操縦性能が問題となっている。そこで、本講演では、風波下における船の操縦性を議論するための基礎となる操縦運動モデルと、それをもとにした風波下における船の操船限界とそこでの針路安定性の理論について概説し、風波中における船の操縦性能の特徴と操縦運動モデルの課題について述べる。



ご参加のお申し込みは、11月27日（金）までに下記連絡先までお願い致します。

セミナー終了後、懇親会（18:00頃～、場所：地下鉄大国町駅付近、会費：社会人¥4,000、学生¥3,000）も予定しています。こちらにもぜひご参加ください。お手数ですが、懇親会への参加希望についても合わせてご連絡をお願い致します。

連絡先：関西船舶海洋流体力学研究会（KFR）事務局
福井 洋（ジャパン マリンユナイテッド(株)）
TEL：059-238-6407 FAX：059-238-6442
E-mail：fukui-yo@jmuc.co.jp

会場までのアクセス

- ・ 南海電鉄「なんば駅（中央出口）」下車、南海線東側の道を南へ約800m、徒歩約12分
- ・ 地下鉄御堂筋線「なんば駅（5号出口）」下車、南へ約1,000m、徒歩約15分
- ・ 地下鉄御堂筋線・四つ橋線「大国町駅（1番出口）」下車、東へ約450m、徒歩約7分
- ・ 地下鉄堺筋線「恵美須町駅（1-B出口）」下車、西へ約450m、徒歩約7分
- ・ 南海電鉄高野線「今宮戎駅」下車、北へ420m、徒歩約6分

（ご注意）建物北側の大阪府立大学専用入口からお入りください。



(I-site なんば HP より転載)

<http://www.osakafu-u.ac.jp/isitenamba/map/index.html>

以上